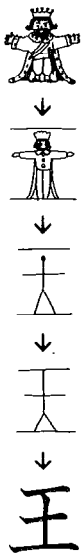


王

画数 4
筆順
オン
クン

丁干王
オウ



「てん」と「ち」とのあいだにいきでせいかつしているひとびとのなかで、いちばんえらいひとである「王さま」をあらわした字です。

「くにでいちばんえらいひと」「くにをおさめるひと」のことですが、「そのみちで、いちばんすぐれたひと」のことのいみにもつかいます。

たとえば、「りくの王者」といえば、「りくじようきょうぎでいちばんすぐれている者」といういみです。

使い方

▽あるところに、たいへんりっぱな王さまがいらつしやいました。王さまにはひとりのかわいらしい王子さまがありました。

▽王さまというのは、みんなのおてほんになるようなりっぱな人でなければなりません。

▽わるい王妃さまは、しらゆきひめをころそうと、さまざまなるだくみをめぐらしました。

熟語例

- ▽女王 (女の王さま)
- ▽法王 (ローマ・カトリックというキリストきようで、いちばんえらいひと。「教皇」ともいいます。)
- ▽国王 (その国でいちばんえらいひと。国の王さま)
- ▽王子 (王さまの子ども。おとこのこ)
- ▽王女 (王さまの、女の子ども)
- ▽王座 (王さまの座るいす。いちばんえらい人の座席なので、だいいちばんのくらいといういみにも、つかわれます。)
- ▽百獣の王 (すべてのどうぶつのなかで、いちばんつよい、ライオンのこと。)

音

画数 9
筆順
オン
クン

一立 音音
オン・イン
おと・ね



「言(ことば)」という字の「口」のなかに「一」をかき入れて、「口からでてくる「こえ」をあらわしたもので、「こえ」といういみの字です。「こえ」は「口からでる「おと」ですが、「が」つきからでる「おと」を「声(こゑ)」といひ、ふたつあわせて、「音声」といひました。

これを「こえやおと」といういみでつかっているうちに、どの字が「こえ」で、どの字が「おと」かわからなくなり、ほんとうは「音」が「こえ」で、「声」が「おと」なのに、「音」が「おと」、「声」が「こえ」と、ぎやくになつてしまいました。字にはこういうことがよくあります。

「オンは呉音、インは漢音」

使い方

- ▽あなたには、ききとりにくい音声だと思ひます。
- ▽大きく口をあけて、しつかり発音しましょう。
- ▽みんなといつしよに、にぎやかな音楽でおどりました。
- ▽ピアノのステキな音色がきこえました。

熟語例

- ▽音声 (人がくちからだす「こゑ」のこと。「ことばのもと」になるものです。むかしは、「音声」といひました。呉音は「声」で、「声」は漢音だからです。)
- ▽呉音 (呉ちほうの発音。ふるいが、せいかつにかんけいのふかいことばにのこつてつかわれています。)
- ▽漢音 (七せいきにつたわつた漢字のひようじゆんてき発音。がくもんできなことばにおおくつかわれます。)
- ▽発音 (口からだす声。また、「声をだす」こと。)
- ▽母音 (ア、イ、ウ、エ、オの五つの音声のこと。)
- ▽子音 (母音がいの音声)
- ▽音楽 (人の声や楽器による「音の芸術」)
- ▽音色 (楽器のしゆるい、こうぞう、ざらしつなどによる、その楽器とくゆうの音。音のたから、つよさにかんけいのないものです。「音色」ともいひます。)